

旧今福家住宅

～表門及び塀 文庫蔵 裏門～



今福家

海老名市中新田は、相模川中流域左岸の低地にあたり、その地名の由来は、「海老名上郷と海老名下郷の間に新しく開拓された田を持つ村」といわれています。

今福家は、戦国時代に活躍した甲斐武田氏の家臣であった今福氏が先祖といわれ、江戸時代には名主も務めた旧家です。寛保3(1743)年から農間に酒受売・太物類(綿織物・麻織物)・荒物類(雑貨)・薬種などの商いを始めたとされています。

今福家の屋号は「大坂屋」で、寛政11(1799)年からは質屋も始め、文政8・9(1825・1826)年は、相模国高座郡内の近村13箇村(現在の海老名、綾瀬、藤沢の一部)に26名の送り質屋(元質屋からの資金により質物を取り、手数料を取って質物を元質屋に送る質営業のこと)を抱えるほどになりました。

十一代当主今福武兵衛(元朝 1806-1879)は、天保7(1838)年の大凶作の時に困窮した村人に救助米を配り、天保12(1843)年6月には江戸・湯島聖堂(江戸幕府学問所)に敷石を献上して老中・堀田正睦から紋付小袖を賜るほどの有力者でした。その後今福家からは、自由民権運動に携わり高座郡長を務めた今福元頼(1843-1924)や哲学者の今福忍(1873-1923)、NHKアナウンサー今福祝(1912-1978)などの政治家・文化人が輩出されています。

大正12(1923)年の関東大震災で、今福家の主屋や米蔵などは損壊し、その後再建された家屋も今は残っていませんが、嘉永6(1853)年建築の表門や塀、弘化4(1847)年建築の文庫蔵、大正期の裏門が今も残されています。これらは屋敷林とともに江戸時代の豪農の屋敷構えを残す希少な建築物として、平成30(2018)年7月20日に文化審議会から文部科学大臣に国の登録有形文化財に登録するよう答申されました。



江戸期の着板

表門及び塀



表門と塀



透彫

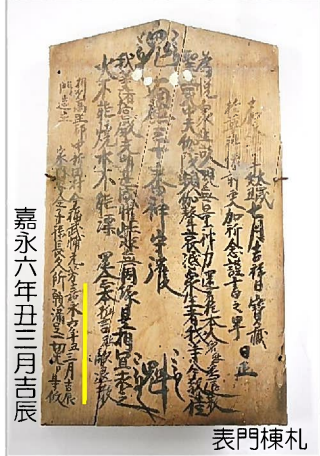


鏡天井



潜り戸

表門側面



嘉永六年丑三月吉辰

表門棟札

今福家の表門として十二代武輔(元芳)により嘉永6(1853)年に建てられました。間口9尺の比較的小規模な薬医門で、この門の形が「今福薬医門公園」の名前の由来となっています。門は総檜造で両側に袖塀を持ち、左袖塀には潜り戸を設けています。

屋根は切妻造棧瓦葺ですが、建築当初は茅葺でした。今福家の記録から明治27(1894)年に瓦葺に改修されたものと思われます。垂木先と破風先は銅製の金具が取り付けられています。妻壁には笈形をかたどった透かし彫りの板を嵌めていることや、天井に鏡板を張っていることが特色です。

門の両脇に連なる板塀の建築年ははっきりしませんが、基礎石の風化状況から、当初かそれに近い時期に作られ、後に改修されたものとみられます。

土台に柱を立て、柱背面に控えをとっています。目板打ちの縦板壁に、上部は襷掛けの欄間となっています。屋根は波板鉄板ですが、これは大正期に改修されたもので、当初は板葺だったと考えられます。

門と板塀が一体となって、旧家の表構えの格式を伝え、景観の形成に多いに役立っています。

年代：嘉永6(1853)年(棟札及び今福家の記録による)

配置：敷地西側の市道に面する。

規模：門 間口9尺(約2.7m) 奥行5尺(約1.5m)

主柱 9.5×6.5寸角(約29×20cm角) 控柱 5.8寸角(約17.5cm角)

塀 延長25.9m(登録対象部分延長)

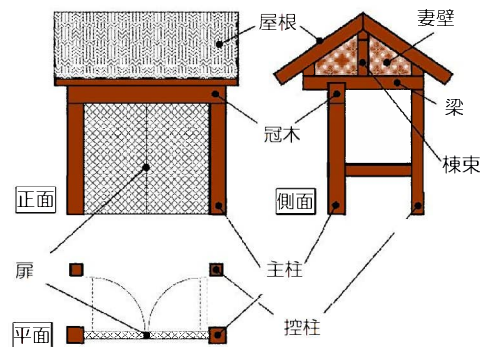
構造：門 薬医門形式 切妻造棧瓦葺、総檜造

主柱と冠木の上に内開きの板扉を立て北脇の袖塀に潜り戸を設ける。

塀 切妻造、亜鉛引波板鉄板葺

【薬医門とは】

主柱と控柱に支えられた屋根の棟を主柱からずらす建築形式。「薬医門」の名称は、「医師の居宅によく使われた門形式」であることからとも「矢を受け止める“矢食い門”が転化した」ともいわれています。公家や武家の屋敷などのほか城門や寺門などにも用いられました。



文庫蔵



文庫蔵 (北東から)



1階 南側窓

3階 小屋組



文庫蔵棟札
(3階棟木に付けられている)

文庫蔵は十二代武輔(元芳)により弘化 4(1847)年に建てられました。外観は2階建に見えますが、内部は3層になっています。

大型の土蔵で、入口は東面の北側に設けられ、下屋を付けています。屋根は切妻造棧瓦葺、外壁と土扉ともに白漆喰仕上げでしたが、関東大震災後、外壁には波板鉄板が張られました。

側まわりには半間ごとに柱を立て、内部はその柱間に杉板を落とし込んでいます。小屋組は登り梁構造で、太い棟木(牛梁)に、1間ごとに角材の登り梁を架けています。梁材には樺が用いられています。

3箇所ある窓は、内戸を斜めに取り付ける特異な形式です。3階建の土蔵は、農家の蔵としては珍しく、また棧瓦の使用や樺材の多用など、建築としての質も高いものです。



文庫蔵立面図

年代：弘化4(1847)年(棟札による)

配置：門を入り、左手側、敷地北側にある。

規模：間口 24 尺(約 7.3m)、奥行 15 尺(約 4.6m)(桁行4間、梁行 2.5 間)

構造：土蔵造、3階建、切妻造棧瓦葺、外壁白漆喰(現状は波板鉄板貼)

裏門

6寸角の凝灰岩の石柱に、同じ石材の冠木を乗せ、その上に「今福」の「今」の字をアールヌーヴォー風にデザインした鉄製飾り金具を取り付けています。冠木の背面には藁座の造り出しがあり、かつては両開きの鉄製門扉が取り付けられていましたが、第二次大戦時の金属供出により失われました。門柱の両側には、大正期の写真では竹垣、昭和初期の写真では板塀が見受けられます。かつては東側水路に架けられた石橋を介して出入りができました。

年代：大正前期頃(図・写真から推定)

配置：敷地の東、水路側にある。

規模：間口 1.6m、高さ約 2.05m

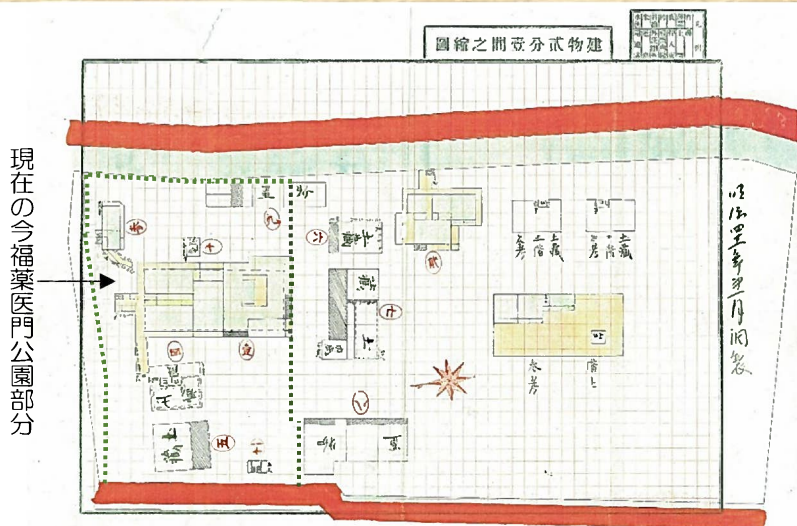


冠木背面と藁座



裏面(南西から)

古記録



明治41年の今福家屋敷図



主屋と文庫蔵(明治期)

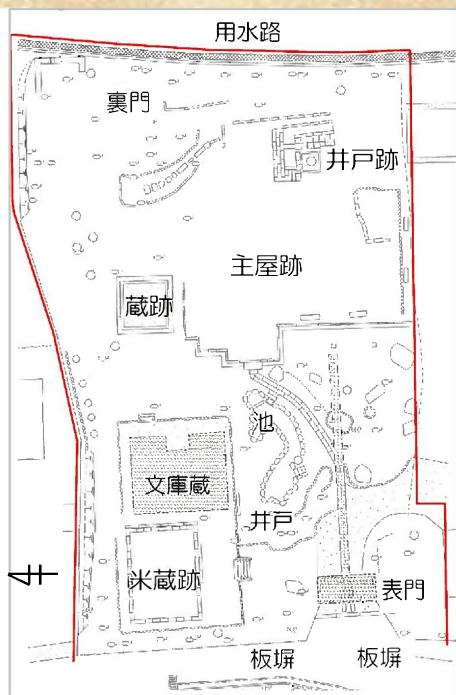


用水路と裏門(大正期)

明治41(1908)年の屋敷図には「瓦葺 居宅 七拾九坪」の主屋や土蔵、物置などがみられます。

かつては東側水路に橋があり、裏門から出て水路を渡ることができました。敷地北側の半分弱が現在の公園部分です。

今福薬医門公園



案内図

今福家の敷地の一部は市に寄贈され、平成19(2007)年に公園として開園しました。園内には、月桂樹や梅檀、山茱萸、黒文字、木大角豆、泰山木、錦木、石榴、三島柴胡、貝母など歴代当主が植えた貴重な樹木や草花が多くあり、四季を通じて楽しむことができます。



シロバナタンポポ

- 《所在地》神奈川県海老名市中新田一丁目 1495 番 5
- 《交通手段》小田急線「厚木駅」より徒歩約 10 分
小田急・相鉄線「海老名駅」より徒歩約 20 分
- 《開園時間》10 時～16 時 30 分
- 《休園日》12 月 27 日～1 月 4 日
- ※園内整備のため臨時休園することがあります。

【問い合わせ】海老名市教育委員会 教育総務課 文化財係



海老名市

住みたい 住み続けたいまち

海老名市中新田 377

☎046-235-4925